

事業群評価調書（令和7年度実施）

基本戦略名	3-2 地域の特徴や資源を活かし、夢や希望の持てるまちを創る	事業群主所属・課(室)長名	県民生活環境部 自然環境課	深谷 雪雄
施策名	4 しまや半島など地域活性化の推進	事業群関係課(室)		
事業群名	⑤ 地域振興のための自然資源の活用	令和6年度事業費(千円)	※下記「2. 令和6年度取組実績」の事業費(R6実績)の合計額	400,530

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025 本文)						(取組項目)				
人々の価値観の変化やニーズの多様化が進む中、国立公園やジオパーク等の地域の豊かな自然をより深く理解・体験し楽しむことを通じて、少しでも長く滞在し何度も訪れたいとなるような滞在環境の魅力が向上する取組を推進します。						i) 自然公園等におけるインバウンド受入環境整備の推進 ii) 国立公園雲仙の滞在環境上質化 iii) 国立公園とジオパーク等の連携				
事業群	指 標		基準年	R3	R4	R5	R6	R7	最終目標(年度)	(進捗状況の分析) 国立公園雲仙の滞在環境の魅力を上向させるため歩道等の再整備を実施する予定だったが、令和3年8月の豪雨により被災した雲仙温泉地区の復興対策に注力する必要が生じたため、令和4年度までに1箇所整備するにとどまった。そのため、令和5年度に指標の見直しを行い、達成時期を後ろ倒しすることとした。
	自然資源を活用した利用環境整備箇所数(累計)	目標値①		2箇所	4箇所	1箇所	1箇所	3箇所	3箇所(R7)	
		実績値②	—	0箇所	1箇所	1箇所	1箇所		進捗状況	
		達成率②/①		0%	25%	100%	100%		順調	

2. 令和6年度取組実績（令和7年度新規・補正事業は参考記載）

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	事業費（単位:千円）			事業概要 令和6年度事業内容及び実施状況 (令和7年度新規・補正事業は事業内容)	指標（上段：活動指標、下段：成果指標）				令和6年度事業の成果等	
				R5実績	うち一般財源	人件費 (参考)		主な指標	R5目標	R5実績	達成率		
				R6実績					R6目標	R6実績			
				R7計画					R7目標				
				事業実施の根拠法令等									
				事業期間	法令による事業実施の義務付け	県の裁量の余地がない事業			他の評価対象事業 (公共、研究等)	事業対象			
所管課(室)名													
取組項目 i ii iii	○	1	国立公園雲仙八万地獄復興対策事業費	42,502	1,351	14,552	●事業内容 令和3年8月の豪雨により被災した国立公園雲仙八万地獄の復旧・再生を図るため、斜面の安定化対策工事等を実施。 ●実施状況 崩壊した斜面上部の安全対策のための本体工事を実施した。	【活動指標】	発注	発注	100%	●事業の成果 ・本体工事のうち上段部の対策工事を実施し、予定どおり復興への取組を進めることができた。 ●事業群の目標達成への寄与 ・対策工事を着実に進めることで、国立公園の上質化などによる利用促進の基盤となる施設の安全性の確保に寄与できた。	
				369,906	1,954	9,461		測量調査・実施設計業務及び工事の発注	発注	発注	100%		
				120,000	0	9,454		発注					
			自然公園法			【成果指標】		—	—	—			
			R4-9					—	—	—			
	自然環境課	—	—	○	対策工事の完了	—							
	○	2	雲仙ネクスト100年上質化事業				●事業内容 島原半島全体の持続的な地域振興のため、国立公園雲仙の利用拠点である雲仙温泉地域の滞在環境の上質化及び周辺資源の活用を推進。 ●実施状況 民間の知見も取り入れて雲仙地域全体の利用施設の現状・課題を整理し、今後の活用方針及び再整備の方向性を検討した。	【活動指標】					●事業の成果 ・民間事業者へのサウンディングにより、雲仙地域の主な利用拠点の魅力度や課題に加え、具体的な民活の活用手法について知見を得られた。 ●事業群の目標達成への寄与 ・滞在期間の延長やリピーターの確保につながるための知見が得られ、地域資源を活用した施設整備の推進に寄与できた。
				15,578	7,790	7,884		コンテンツと連携した歩道等の再整備箇所数（箇所）（累計）	1	1	100%		
				80,000	0	7,878		3					
			自然公園法			【成果指標】							
R6-10						雲仙天草国立公園（雲仙地域）の利用者数（千人）		2,178	1,877	86%			
自然環境課	—	—	○	国立公園雲仙の優れた自然を享受する公園利用者及び地域住民		2,270							

取組 項目 i ii iii	3	自然公園等DX推進事業費				●事業内容 自然公園施設等の現地確認業務にドローンを導入し、自然公園利用拠点の上質化及び民間事業者と連携した観光情報発信等を実施。	【活動指標】 ドローン操縦職員数（人）（累計）				—
			2,327	1,432	788		2				
			自然公園法、長崎県自然公園内県営公園施設条例				【成果指標】 自然公園登山道（歩道）巡視回数（回／月）				
		(R7新規)R7-9					2				
		自然環境課	—	—	—	県内の優れた自然を享受する公園利用者及び地域住民					
	4	自然公園施設補修費	12,806	5,806	10,340	●事業内容 既設の自然公園施設について、安全かつ快適な利用を図るため、維持補修を実施。 ●実施状況 吉岐対馬国定公園勝本園地（吉崎市）などの維持補修を実施した。	【活動指標】 自然公園等利用環境整備箇所数（箇所）（累計）	5	7	140%	●事業の成果 ・自然公園施設の不具合等が発見され次第速やかに補修を行うことにより、利用者の事故防止に寄与した。 ●事業群の目標達成への寄与 ・自然公園施設を維持補修することで、地域の自然資源を安全に活用できる利用環境の確保に寄与した。
			15,046	6,146	9,067		5	4	80%		
			89,532	15,132	9,060		8				
			自然公園法第3条				【成果指標】	14,417	10,880	75%	
		—					自然公園利用者数（千人）	14,504	10,843	74%	
	自然環境課	○	—	—	県内の優れた自然を享受する公園利用者及び地域住民		14,591				

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i 自然公園等におけるインバウンド受入環境整備の推進		●実績の検証及び解決すべき課題 多様化が進む利用ニーズに対応した受入環境整備が必要である。	●課題解決に向けた方向性 県が実施する安全対策工事により利用者の安全性を向上させ、関係機関が連携して受入環境の整備に取り組んでいく。
ii 国立公園雲仙の滞在環境上質化		●実績の検証及び解決すべき課題 国立公園雲仙の利用拠点である八万地獄が令和3年度の豪雨により被災したため、利用者の安全を確保する対策工事を可能な限り早期に完成させる必要がある。	●課題解決に向けた方向性 八万地獄の創造的復興に向けたグランドデザインに基づき、県が実施する安全対策工事をはじめ国、県、市、地元関係者が連携して国立公園雲仙の上質化に取り組んでいく。
iii 国立公園とジオパーク等の連携		●実績の検証及び解決すべき課題 地域が進めるジオパークを活用したコンテンツと連動した案内板・解説板の再整備など受入環境整備を進めていく必要がある。	●課題解決に向けた方向性 ワーキング会議等により地元のニーズを把握し、受入環境を充実させていく。

4. 令和7年度見直し内容及び令和8年度実施に向けた方向性

取組項目	中核事業	事業番号	事務事業名	令和7年度事業の実施にあたり見直した内容 ※令和7年度の新たな取組は「R7新規」等と、見直しが無い場合は「—」と記載	令和8年度事業の実施に向けた方向性		
			事業期間		事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
			所管課(室)名				
取組項目 i ii iii	○	1	国立公園雲仙八万地獄復興対策事業費	—	—	利用者の安全を確保し、雲仙の復興を図るため本事業を推進する。 なお、当該事業については工事中に作業用道路法面が小崩壊するなど不測の事態が発生し、工事に遅延が生じたため事業終期を令和9年度まで延長する。	現状維持
			R4-9				
			自然環境課				

取組 項目 i ii iii	○	2	雲仙ネクスト100年 上質化事業	令和6年度に実施した国立公園雲仙の上質化のための民間 活力導入の検討結果を施設整備の設計に反映させることとし ている。	⑤	雲仙市観光戦略に位置づけられた受入環境（県有施設）の整備について、民 間活力導入の検討結果を踏まえ、更なる魅力向上に取り組んでいく。	改善
			R6-10				
			自然環境課				
		3	自然公園等DX推進事業 費	R7新規	②	令和7年度はドローン導入による取組の初年度であり、秋以降に自然公園施 設等の現地確認業務に導入された実績、課題を検証し、令和8年度以降の運用 改善を図ることとしている。	改善
			(R7新規)R7-9				
			自然環境課				
		4	自然公園施設補修費	—	—	老朽化した施設の損傷や不具合により利用者の安全が損なわれることがない よう、施設管理者と十分連携を図り、計画的に本事業を実施していく。	現状維持
			—				
			自然環境課				

注：「2. 令和6年度取組実績」に記載している事業のうち、令和6年度終了事業、100%国
庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、
指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】
① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができてい るか。
② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるた めの工夫を検討・実施できているか。
③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・ 協力関係の整理ができているか。
⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案（制度改正要望）する必要はないか。
⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
⑩ その他の視点